

第12回日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会について（報告）

1 日 時 令和3年3月26日（金） 午前10時から午前11時まで

2 場 所 日立市役所 503・504号会議室

3 出席者

(1) 委員 16名（欠席：古井委員、吉田委員、冨田委員、宇佐美委員、鈴木委員）

(2) 傍聴者 1名

4 内容

(1) 委員長挨拶

・第1回が昨年1月29日であり、途中新型コロナウイルスの中断があったが、約1年2ヶ月にわたって続いてきたこの委員会もいよいよ最終回を迎えた。非常に感慨深いというか、万感胸に迫るものがある。残念ながら本日は5人の委員が欠席ではあるが、今日はこの提言書（案）の最終確認をしていく。その後皆さんに一言ずつ振り返りの言葉をいただきたい。

(2) 第2次「日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会」提言書（案）について資料に基づき、事務局から提言書（案）の内容について説明を行った。

○委員長

・今の事務局からの説明に対して、何か意見等はあるか。こちらの提言書は第8回（11月）に骨子案を議論してもらった。そのあと、新型コロナウイルスの影響で会議が中々開催出来ず、郵送（書面）で素案について2回（2月、3月）にお目通しいただいて意見をもらい、事務局で集約したものがこの最終案となっている。こちらについて確認事項はあるか。

○委員

・表紙の表記で「第2次」という文字がまっすぐでその他の文字がカーブになっている。これはわざとこういう風になっているのか。この方がいいということなのか。

○事務局

・事務局としてはこういうレイアウトがいいかと考えたが、何かアイデアがあれば修正させてもらう。

○委員長

・若干違和感があるのが、「第2次」の文字が左に偏っていて、しかもまっすぐである。バランスが悪いので、例えばこれを真ん中に持ってきてはどうか。

○事務局

・真ん中に修正させてもらう。

○委員

・この提言を第2次とするならば、第1次は「行政とコミュニティ活動のあり方検

討委員会」であった。つまり、それぞれで今までやっているコミュニティ活動の内容が、行政との協働がもう少しあった方がいいというような行政とのコミュニティ活動のあり方であった。しかし、今回は日立市全体のコミュニティ活動のあり方のため、全く第2次ではないような気がするが、どうなのか。

○事務局

・第1次のと時の提言書の特徴としては、コミュニティと行政との関係の原則を明確にしたということと、行政がコミュニティに対する支援策について検討してきたという経過がある。たしかに1次とのタイトルは違うが、コミュニティ活動、コミュニティ組織について検討をしてきているということについては変わりはない。1次の方で、43項目の提言を受けてそれを推進してきたということで、継続性をもってやっているということもあるので、今回は第2次と位置づけさせてもらった。

○委員長

・継続性、つまりここで初めてやったということではなく、今までの日立市の取組の継続ということでよいか。

○委員

・行く末が気になるが、市長に提言したあと、この冊子というか、せっかくまとめたものはどのように使うのか。

○事務局

・提言を踏まえて、4月からは行動計画というものをコミュニティとともに策定していくことになる。今年の9月までには策定したいと考えている。

○委員長

・皆さん、よろしいでしょうか。それではご確認いただいたということで、こちらを成案とするので、表紙の提言書(案)の(案)を削除するようお願いしたい。こちらを後程市長に提言させてもらう。

(3) 振り返り

○委員長

・本日最後の委員会となるので、委員の皆さんから一言ずつ感想をいただきたい。

○委員

・在り方検討委員会に際して、実際に金沢学区で活動をしているが、とにかく今の活動が65歳以上の高齢者の皆さんが、活動としては8割強であり、ほとんどが高齢者の地区ということで、その中に若い方をいかに取り込んでいくかということで、今デジタル化を具体化するような若い方の参加を推進している。この会議においては、たくさんのいろいろな方の意見を聞いて非常に参考になり、いい点は実践していこうというふうに思っている。ありがとうございました。

○委員

- ・1年間大変お世話になりました。各立場のご意見を大変参考にさせていただきました。4月から市内の各小中学校で学校運営協議会の本格実施が始まる。今までも地域の皆様に大変助けられながら学校を運営してきたが、より結びつけを強めて、子どもたちを学校でも地域の方も同じように、立派な大人に向けて成長を助けていくということで、結びつきを強めていきたいと思う。この提言書が出されたので、具体的に行動計画が策定されると思う。学校の方についても、今こういう動きがあるということは各校長に伝えてあるので、学校の中では出来ない、地域の支援についてしっかり協力していただけるように、学校側も情報を伝えていき、地域の方々のご意見も積極的に取り入れていく、そういう流れを作っていきたいと考えている。ありがとうございました。

○委員

- ・私はこのキーワードの“つながる”、これが大変なものだと思う。このつながるという言葉では、きっかけがポイントになるかと考えた。きっかけは別名、チャンスとも言い換えるが、分かってきたように思う。マイナスのきっかけは災害になってしまうが、その裏にはプラスのきっかけ、これは日常生活の安心にあるのかなと思う。特に23ページを見てみると、向こう三軒両隣の重要性、これをこの会議で改めて認識した。地域をつくる元となっているのは、やはり御近所だと。グループワークで話したが、この4月から市報を配る当番になっている。4月5日号を配るにあたり大丈夫かなと思ったのが、全部のお宅の名前が言えない。どこにあってというのが、大体分かるが分からない。改めて頑張っていきたいなというのがありますが、1年間本当にいろいろな勉強になった。ありがとうございました。

○委員

- ・コミュニティ活動の在り方検討委員会の委員になり、貢献出来たか出来ないか分からないが、立派な提言書が出来上がってうれしく思っている。ありがとうございました。

○委員

- ・いろいろお騒がせしまして、いろいろなことを言わせていただきましてありがとうございました。はじめ参加しませんかと言われたときに、私は関係ないのではないかと申し上げた。コミュニティの話にNPO?と尻込みした。今一番気になっているのは、これからいろいろな相談窓口が交流センターになってきて、気軽にみんながいろいろなことを言えるようになった場合、そこから先がきちんとしていないと行き場がなくなる。そこが一番悩んでいるところである。行政のいろいろな支援から漏れた人、介護保険にも該当しない、疾病等にも該当しない、そういう行政の網から漏れた人をどうしていったらいいのかと頭を抱えている。そういう方を最終的に責任もって面倒見てくれるのが行政ではないかと思うので、これからまたいろいろお話していきたいと思うのでよろしく願います。

○委員

- ・こういう会に参加させていただいて、行政の方で、何か新しい方向性を作ったり、それを形づくっていくというのは、こんなふうに行っていくんだと貴重な体験をさせてもらって、すごくうれしく思っている。私の本業というか、読み聞かせなどをやっているが、図書館では細々ながら続いてきたが、如何せん老人施設は閉鎖状態である。どういうわけか、今回のこの表紙を見た瞬間、マイナスの方のイメージを受けて、これはウイルスかなと思ってしまったが、それはこの時期だからという話であり、ウイルスでもさくらが咲いて花いっぱいとなっていますので、いいウイルスなのかと思う。早くウイルスが終わり、ワクチンの効果が出てくることを楽しみにしている。ありがとうございました。

○委員

- ・私は常々提言者は実践者でなければならないと考えて今まで行動してきた。この立派な提言書が効果的に運用される、運用するようにそれぞれの立場で努力をしていきたいと思うし、皆さんにもお願いしたい。“つながる”きっかけづくりが大切だ、そのきっかけを作るのはやはりコミュニティだと思っている。皆さんのご努力と私も頑張っていく。3つの提言があったが、3つの提言それぞれに分けて、これから行動計画が出されると思うが、その行動計画の3つの提言それぞれに分けた、行政と市民、関係機関が一体となった協議する機会を設けて、効力を発揮してもらいたい。

○委員

- ・自分ではこの検討委員会に加わることが出来て、改めてコミュニティ活動の考え方などを検討出来たことを感謝している。提言書が出来たことによって、次のステップが、行動計画ということなので、市民、学区の皆さんに本当にどう理解していただいて、協力をいただかなければ、この提言書が、ただのPR書になってしまうところがあるので、これが本当に皆さんに理解して協力していただけたら、日立市に本当に住んで良かったなということで、つながることが出来ると思う。本当にありがとうございました。

○委員

- ・1年2ヶ月本当にこの委員会の一員として微力ながら参加させていただいたことに感謝申し上げます。やはり地域福祉の推進の中でコミュニティ23単会との協働・連携が大事であり、現在も先程の委員からもあったが、いろいろなケースが、多岐に渡ったり、複雑であったり、当然そこに高齢の方がたくさんいる。そういった中では、より多くの市民の方が、参加の前に関心を持つということが大事であり、我々が日々アンテナを張りながら、漏れている方、潜在的に困っている方を救えるコミュニティ活動を期待していきたいということと合わせて、我々も地域の中に入って、地区担当と生活支援担当それぞれやっているのです、より一層職員

も自己研鑽しながら、地域に頼られる、期待される組織として、全面的にコミュニティ活動をバックアップしていきたいと思っている。これからもよろしく願います。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

○委員

- ・皆さんお疲れさまでした。たくさんの方のご意見を今回聞かせていただいた。アンケートや職員の方からお聞きした中で、コミュニティに気軽に楽しく関わってもらおうというためには、その状況をどう作れるかということだと思ふ。活動拠点が交流センターなので、交流センターにそういう機能を持たせていくということが大変重要かなと思っている。今はコミュニティと交流センターがバラバラになっているけれども、そこは知恵でうまくつないで、今他の委員の皆さんも言っていたように、気軽に相談に来られたときに一緒に悩み、解決策を見つけたとして、その次に行政につないだ時に、その協働の部分を防災訓練にしても福祉の分野にしてもそうだが、まさに協働というただの上っ面ではなく、本当の意味での協働というのはどういう体制を作ればいいのかというのを、お互い知恵を出して考えて、常日頃協働体制をとれるというようにしておく必要があると思っている。
- ・今回の提言の次の行動計画に大変期待をしていて、そこに細々書くことがどうかとも思うが、このままではかなり大雑把なので、参考になるようなものをそこに事例を挙げたうえで、リーダーの参考書になると思うので少し多めにいただいて、いいまちを作ろうという意味では、行政も私たちも同じように、力を合わせてやりたいと思っている。ちなみにここでいろいろなことを先行して聞くことが出来たので、私たちの組織も来年度はスリム化して、組織も縮小し、今まで7局あったものを4局にし、地域の住民の負担感が少なくなるようにしようと思切って変えた。一生懸命頑張るので、またご支援いただきたい。このような機会をいただき、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。

○委員

- ・個人的にはコミュニティ活動は向こう三軒両隣という意識を復活させなければ、これから続けていけないのではないかなと考えている。私もコミュニティ活動を20年程やっているが、地域とのつながりの重要性という関係で啓発活動をたくさんやってきたが、現実には中々難しいという感覚でいた。今回委員の皆さんの中で、いろいろな意見の中に参考になることがたくさんあったので、これから具体策を検討して、粘り強くやっていく必要があるのかなと思っているので、今後とも頑張りたいと思っている。ありがとうございました。

○委員

- ・私の町内も段々高齢化になり、私が一番若い年齢になってしまい、消滅の危機にある。その高齢化も皆さん女性の方一人世帯が多くなった町内である。それでも私たちの親がとても楽しく町内の方と昔相談していた姿を見ていたので、昔の町

内の組織を分かっているだけに、今の近所の方たちのつながりをすごく大事に思っていて、次の子供の世代にその思いを伝えていきたいなという思いが強くなる。消滅の危機にある自治会・町内会、そこで困ったときにはコミュニティに相談にあって、そこにコーディネーターが設置されることを期待して、相談に乗ってもらって、一步でも前進して、今後の地域の活動を守っていただければいいと思って、切に希望している。1年以上のお付き合い、ありがとうございました。

○委員

- ・1年間本当にありがとうございました。私の学区では、ここに表記されていること、全くその通りのことをやってきた。やはり在り方検討委員会もかなりためになったと思っている。これからも自治会・町内会との協力体制は必ず必要になるので、この提言書を参考にしながらやっていきたいと思う。1年間ありがとうございました。

○委員

- ・私は立場的には、担当部また委員という2つある。冒頭に委員長からご挨拶があったが、昨年1月からコロナ禍を受けて、今日で12回目ということであるが、深い協議と熱心な議論をしていただいたことで、この提言書を大きく3つの提言としてまとめていただいたことに、担当部として御礼申し上げる。
- ・この提言書であるが、役所には数々の提言や指針があるが、そのいただいた提言をいかに実践していけるかが大切なので、これからの取組の方向性を示す提言書だと認識している。新年度は、協力いただきながら、これを実践すべく行動計画を秋までにはまとめて、次期総合計画にも反映できるような形にしていきたいと考えているので、今後とも意見等ありましたら御協力をお願いしたい。

○副委員長

- ・事務局はじめ、委員の皆さまの熱心な議論をいただきありがとうございました。提言の内容については、コミュニティ推進協議会が今まで推進してきたり、推進しようとしていたりする内容について、文章にまとめてもらったと思っている。これが市民共通のテキストになると思う。この機会に市民の皆さんや各種団体の皆さんにも課題について共有していただけたということは、有意義なことだと思う。私はこの委員会、アンケート、パブリックコメントを通じて感じたことは、各コミュニティ23単会の活動スタッフと住民の認識の差は大きいと思う。コミュニティが行政に対して、地域の代表だとは思わない方もたくさんいると感じた。交流センターとコミュニティ活動については、運営している人たちは明確に区分して実施していると思っているが、住民の多くの方は区分が分からないということで、交流センター活用の今後の大きな検討課題であると感じている。市長に提言して、行政側にはこれを具現化していく仕掛けづくりを期待している。現在に至るまでのコミュニティ活動によって、再生資源の負担軽減や、防犯灯の市への

移管、市報の全戸配布など、行政サービスが行き届く程住民のコミュニティの存在意義、意識というのが弱くなると思う。その一方で災害時の対応や福祉介護問題については全住民を対象として、コミュニティは活動をしているので、そういう観点からもコミュニティ活動の構成員は全世帯だということを念頭において、仕掛けづくりをしてもらうことを期待している。

○委員長

- ・最後に私からご挨拶させていただきます。大変な委員会でしたが、当たり前だと思う。先日、常磐大学卒業式があり、4年前に総合政策学部が出来て、初めての卒業生を出すことが出来た。彼らは地域の担い手として、今後巣立っていくわけだが、彼らに対して卒業式の前に伝えたことは、これから皆さんは社会の歯車になっていく、ただ歯車は自分で動いて他の歯車を回す歯車と、他から回される歯車がある。総合政策を学んだあなた方は、小さくてもいい、ゆっくりでもいいから自分自身が動く歯車になってほしい。そうすれば、地域全体の活力が増すと話させてもらった。間違いなく、ここの委員の皆さん、それぞれが自分で動く歯車である。自分で動く歯車が21個集まったら、それはすごいエネルギーがぶつかり合うわけである。そのため大変ではあったが、だからこそ様々な刺激をお互いが与えあったり受け合ったりということもあり、いろいろな気づきもあった。大変なのは当たり前である、何かを生み出すときというのは大変である。おそらくそれはコミュニティも一緒である。この委員会自体が一つのコミュニティだったのではないかと思う。この委員会の成果というものは必ずしもこのまとまった提言書だけではないはずであり、もちろんこれも大事ではあるわけだが、おそらくこの日立市において、自分自身が動く歯車である皆さんが、刺激を受け合ったこと、そしてそれぞれの立場に戻って、さらに自ら動く歯車として地域を回していくこと、それが日立市全体のさらなる活力につながると思っている。皆さんそれぞれの立場で是非ご活躍いただきたいのと同時に、私自身も日立市の総合計画の策定委員会と男女共同参画の審議会委員になっているので、今回皆さんと1年2ヶ月に渡って様々な議論をさせていただいた、刺激を受けたことをそういった委員会、他の審議会でもいかしたいと思う。常磐大学には、日立市から来てくれている学生が大変多くいる。彼ら彼女たちに対して、コミュニティというものを教えるときにも、今回のこの委員会で議論したこと、あるいはこの提言書なども踏まえて、学生たちにコミュニティについて教えて、彼ら彼女たちが将来の日立市のコミュニティを担ってもらえる、そんな若者の教育にも努めていきたい。副委員長はじめ、委員の皆さん、事務局の皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

(4) その他

委員会終了後、砂金委員長、石川副委員長から市長へ提言書を提出し、提出をもつ

て、日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会は解散となることの説明があった。
なお、各委員へ、製本された提言書を後ほど送付することが確認された。

以 上